

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2019

Spring

スペイン・ポルトガル

多彩な魅力 イベリア半島

第二特集

極上のリゾート地

奇跡の楽園タヒチ
[パペーテ・ボラボラ島]

[発行] (株)ジャパングレイス



芸術、歴史、美食を楽しむ

スペイン・ポルトガル

ヨーロッパ大陸の西端にあり、ジブラルタル海峡をはさんでアフリカ大陸と向かい合っているのが、イベリア半島である。ヨーロッパ第二の半島でその約8割をスペインが、2割をポルトガルが占める。紀元前からの歴史においてさまざまな民族が居住し、多様な文化が育まれ、美食家をうならせるグルメも多い。気候も温暖で過ごしやすく、楽しみがいっぱいの寄港地だ。



CONTENTS

特集

芸術、歴史、美食を楽しむ

スペイン・ポルトガル

スペイン[バルセロナ]

ガウディが遺した建築物 P4

「中世」がそのまま残り重みを感じさせる街 P6

ポルトガル[リスボン] P8

ポルトガル[ポルト] P10

新しいワインとの出会い P11

地球一周の船旅で英会話を学ぶ[GET] P12

第二特集

極上のリゾート地

奇跡の楽園タヒチ

パペーテ P14

ボラボラ島 P16

PEACE BOAT NEWS P18



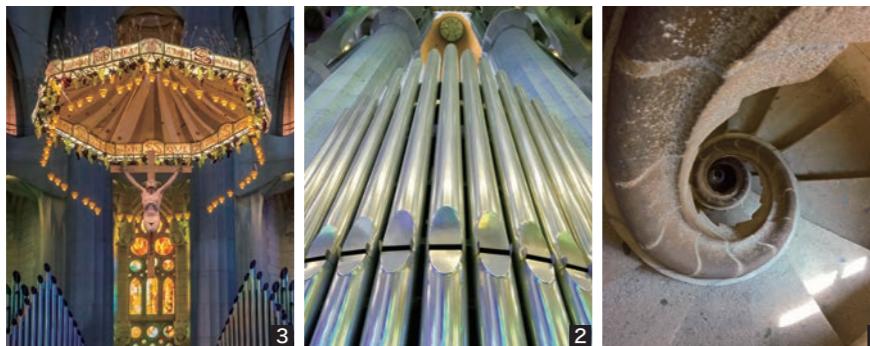
Ocean Dream

ポルトガル・ポルト港停泊中のオーシャンドリーム号

表紙の写真

バルセロナのサグラダ・ファミリア。世界一周で度々訪れる人気の訪問地。





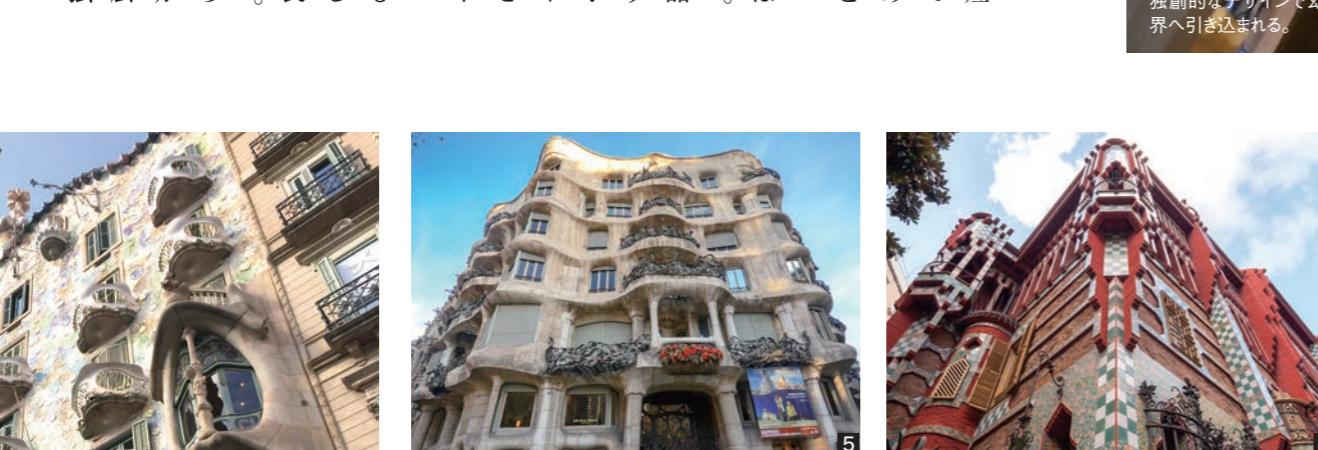
1:塔から降りるときに使う、巻貝をイメージしたらせん階段。2:定期的に美しい音色を響かせるパイプオルガン。3:主祭壇のキリスト像、黄金色の天蓋には細かい装飾がなされている。

バルセロナを中心とするカタルーニャ地方では、19世紀に産業革命を成し遂げた経済発展とともにモデルニスモ（近代主義）と呼ばれる芸術的な復権運動が起つた。それは特に建築分野で目立ち、スボンサード（アントニ・ガウディ）によって「大ムーブメント」になる。

アントニ・ガウディは、そんな富豪の一人、エウゼビ・グエルによって見出された。1878年、当時まだ駆け出しの建築家であったガウディは、パリ万博博覧会に展示していた手袋のショーケースをグエルに高く評価され、以後支援を受けることになる。

ガウディの代名詞になつているのがカトリックの教会堂「サグラダ・ファミリア」。バルセロナ一番の観光スポットとして世界各国から観光客が押し寄せる。1883年に31歳で主任建築家に就任したガウ

ディがライフルワークとして取り組んだ未完の傑作だが、近年工期短縮により2026年に完成予定であることが発表された。唯一無二のデザインに緻密な彫刻、装飾がほどこされたファサード（建物正面）、神秘的な聖堂内部など、見る者はその壮大さと荘厳さに圧倒される。ほかにも市内ではガウディ作品をいくつも見ることができる。グラシア通りに面して建つ邸宅「カサ・ミラ」も代表作の一つ。地中海をイメージしたとされる曲線状に波を打つて建つ外観が特徴でバルコニーの装飾も一つひとつ異なつていて。すぐ近くにある「カサ・バトリョ」もぜひ訪ねたい。骸骨をモチーフにしたバルコニー、カラフルなタイルで装飾された外観など見どころは多い。市内中心部から少し離れたところにある「グエル公園」のほか、「グエル邸」「カサ・ビセンス」「レイアル広場の街灯」などを巡りながら、独創的なガウディの世界に浸ろう。



4:ガウディが初期に手がけた建築物で、タイル製造業者の家であったためか多数のタイルが用いられている「カサ・ビセンス」。5:「世界遺産のマンション」としても知られ現在も入居者がいる「カサ・ミラ」。6:1877年に建てられ、出窓の柱の様子から「骨の家」ともいわれている。ユニークな屋上の煙突も必見の「カサ・バトリョ」。

Antoni Plàcid Guillem Gaudí i Cornet



聖堂内部は巨大な樹木を表した独創的なデザインで幻想的な世界へ引き込まれる。

スペインが誇る天才建築家

ガウディが遺した建築物

古代ローマ建築にはじまり、スペインは世界に名だたる建築物が多い。そのなかで19世紀末から20世紀初頭にかけてバルセロナを中心に発展した芸術様式、モデルニスモの代表的な建築家の一人がアントニ・ガウディだ。稀代の天才が遺した建築物はバルセロナの「顔」として生き続けている。

「中世」がそのまま残り重みを感じさせる街

ヨーロッパでも指折りの人気都市バルセロナには、観光名所が数多くある。なかでも有名な見どころが揃っているのが、ローマ時代に築かれたゴシック地区と呼ばれる旧市街だ。このエリアのシンボルと言えるのがバルセロナ最高位の教会である「サンタ・エウラリア大聖堂」。現地の人にとって特別な存在で、ゴシック形式の入口の前に立つだけで歴史の重みが迫ってくる。

いつも観光客で賑わっているバルセロナの繁華街「ランプラス通り」にはカフェやレストラン、土産物屋のほか絵描きや大道芸人もいて、散策するだけでわくわくさせてくれる。歩き疲れてひと休みするなら、修道院を改装した「レイアール広

場」がおすすめ。ガウディが手がけたガス灯もある。旧市街は中世の雰囲気ただよう街並で、風情のある細い路地を歩くのも楽しみの一つだが、入り組んでいるので迷わないよう、ご注意を。そんな路地の一角にあるのが「ピカソ美術館」。多作で知られるピカソは10代をバルセロナで過ごし、その「青の時代」の作品から晩年まで作風の変化を鑑賞できる。

美術好きならモンジュイックの丘にある「ミロ美術館」にも足を伸ばしたい。ピカソと並ぶスペインの世界的画家ジョアン・ミロが作った美術館で、見る者をなごませる彼の特の作品約1万点を中心に展示されている。またモンジュイックの丘

で、見る者をなごませる彼の特の作品約1万点を中心に展示されている。またモンセラット修道院付属大聖堂で、見る者をなごませる彼の特の作品約1万点を中心に展示されている。またモンセラット修道院付属大聖堂には黒いマリア像が安置され、キリスト教の聖地として信仰を集めている。また大聖堂前の中庭で瞑想すると不思議な力が宿るという

からにはバルセロナ市内を一望する景色も楽しめる。

このほかバルセロナ近郊の、パワー

スポットとしても知られるモンセラットへのオプショナルツアーがある。モンセラットはスペイン語で「のこぎり山」を意味し、ごつごつとした奇妙な岩山を削って建物が建てられている。標高1200

メートルを超える山頂からの雄大な景色は多くの観光客を惹きつけている。中腹にある「サンタ・マリア・

モンセラット修道院付属大聖堂」には黒いマリア像が安置され、キリスト教の聖地として信仰を集めている。また大聖堂前の中庭で瞑想すると不思議な力が宿るという

言い伝えがある。

本場の「バル」で、ワイン片手にタパスに舌つづみ

ヨーロッパでも指折りの人気都市バルセロナには、観光名所が数多くある。なかでも有名な見どころが揃っているのが、ローマ時代に築かれたゴシック地区と呼ばれる旧市街だ。このエリアのシンボルと言えるのがバルセロナ最高位の教会である「サンタ・エウラリア大聖堂」。現地の人にとって特別な存在で、ゴシック形式の入口の前に立つだけで歴史の重みが迫ってくる。

いつも観光客で賑わっているバルセロナの繁華街「ランプラス通り」にはカフェやレストラン、土産物屋のほか絵描きや大道芸人もいて、散策するだけでわくわくさせてくれる。歩き疲れてひと休みするなら、修道院を改装した「レイアール広

場」がおすすめ。ガウディが手がけたガス灯もある。旧市街は中世の雰囲気ただよう街並で、風情のある細い路地を歩くのも楽しみの一つだが、入り組んでいるので迷わないよう、ご注意を。そんな路地の一角にあるのが「ピカソ美術館」。多作で知られるピカソは10代をバルセロナで過ごし、その「青の時代」の作品から晩年まで作風の変化を鑑賞できる。

美術好きならモンジュイックの丘にある「ミロ美術館」にも足を伸ばしたい。ピカソと並ぶスペインの世界的画家ジョアン・ミロが作った美術館で、見る者をなごませる彼の特の作品約1万点を中心に展示されている。またモンジュイックの丘

で、見る者をなごませる彼の特の作品約1万点を中心に展示されている。またモンセラット修道院付属大聖堂には黒いマリア像が安置され、キリスト教の聖地として信仰を集めている。また大聖堂前の中庭で瞑想すると不思議な力が宿るという

言い伝えがある。



1:カタルーニャ広場からコロンブスの塔まで続く「ランプラス通り」。2:ゴシック地区にあるバルセロナで最も格式の高い「サンタ・エウラリア大聖堂」。3:14世紀の貴族の館を利用して「ピカソ美術館」。4:カタルーニャの聖地といわれる「モンセラット」。5:観光客にはフラメンコショーも大人気。



9:一見パエリアのようだがパスタを使っている「フィデウア」。10:定番ともいえる地中海のムール貝は絶品。11:イベリコ豚を用いたものから生ハムの種類は豊富。12:多くのバルで見かけるイワシのオリーブ漬け。13:トーストしたパンにトマトを塗る「パン・コントマテ」。

味しさだ。観光の合い間に小腹が空いたり、のどが渴いたら気軽にバルのドアを開けよう。カジュアルな雰囲気なので店内で現地の人と交流が生まれることも少なくない。

またスペインを訪れたら、入ってみたいのが「バル」。生ハムやアヒージョ、オムレツをはじめ「タパス」と呼ばれる小皿料理はどれもグレードが高い。ビール、ワインも格別の美

6:街のいたるところにバルがあり、人気店には行列もできる。7:気軽にに入って思い思いのスタイルで楽しめるのがバルの魅力。8:食材を串に刺してつまんで食べるのが「ピンチヨス」。





1: テージョ川に面した「テルメシオ広場」は、宮殿があった。2: 高さ52メートルの巨大な「発見のモニュメント」。3: ポルトガルの栄光を伝える大寺院「ジェロニモス修道院」。



1



テージョ川の河畔に広がるリスボンは、丘に囲まれ「7つの丘の街」とも呼ばれている。古い歴史をもつて特に大航海時代にいち早く世界へ船出したことで知られ、喜望峰やインド航路を「発見」し海洋帝国を築いていった。隆盛を誇ったこの時代に建造された建築物は今も残され往時をしのばせる。1755年の大震災で打撃を受けるが、その後洗練した街づくりが進み、震災を逃れた中世以前の古き良き雰囲気と絶妙のバランスを生んだ。こじんまりとした街だが活気にあふれ、観光スポットも数多い。



リスボン

Lisbon

ポルトガルの首都リスボンは西ヨーロッパ最古の都市。その美しさは古くから多くの人を魅了し、現在も世界中から観光客が訪れている。

Lisbon Food & Goods

リスボン名物のイワシの塩焼き。

リスボンでよく食べられているタラの料理。

エッグタルト「バシュテル・デ・ナッタ」は国民的おやつ。

「魚の街」らしい、可愛い魚のマグネット。

幸せのシンボル雄鶏「ガロ」の置物。



ヨーロッパ最西端の「ロカ岬」。



ポルトガル王家が住んでいた「シントラの王宮」。

大航海時代の面影が残る7つの丘の街

旧市街アルファマ地区は、石畳をトラム（路面電車）が走り、なつかしく落ち着いた雰囲気がある。古代ローマ時代に建設された「サン・ジョルジエ城」へ上れば街並みを一望できる。隣のバイシャ地区には「コルメシオ広場」があり、ここからトラムに乗ってベレン地区へ向かうのもいい。ベレンは大航海時代にゆかりの深い世界遺産地区で、ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路発見を記念して建設された「ジェロニモス修道院」、河口の要塞でマヌエル様式を代表する建築「ベレンの塔」などは必見だ。またテージョ川岬にあるエンリケ航海王子をはじめ大航海時代に活躍した偉人たちを称えた「発見のモニュメント」も迫力があり見応え十分だ。

リスボンから日帰りで行ける、かつての王室の避暑地「シントラ」。8世紀頃にムーア人によって造られた城がこの街のはじまりといわれる。12世紀以後、王侯貴族の屋敷が多く建ち世界遺産に登録されている。「シントラ宮殿」では豪華で美しい建築様式の部屋を見学できる。保存状態も良く、長い期間、王家に愛された宮殿の歴史が迫つてくるようだ。シントラと並び里斯ボン近郊ツアーリとして人気なのがヨーロッパ最西端の「ロカ岬」。太陽が最後に沈む最西端の地には、詩人カモンイスによる「節」「ここに地終わり、海始まる」と記された碑が建っていて、ここが「地の果て」といわれる理由を実感できる。



リスボン名物のイワシの塩焼き。

リスボンでよく食べられているタラの料理。

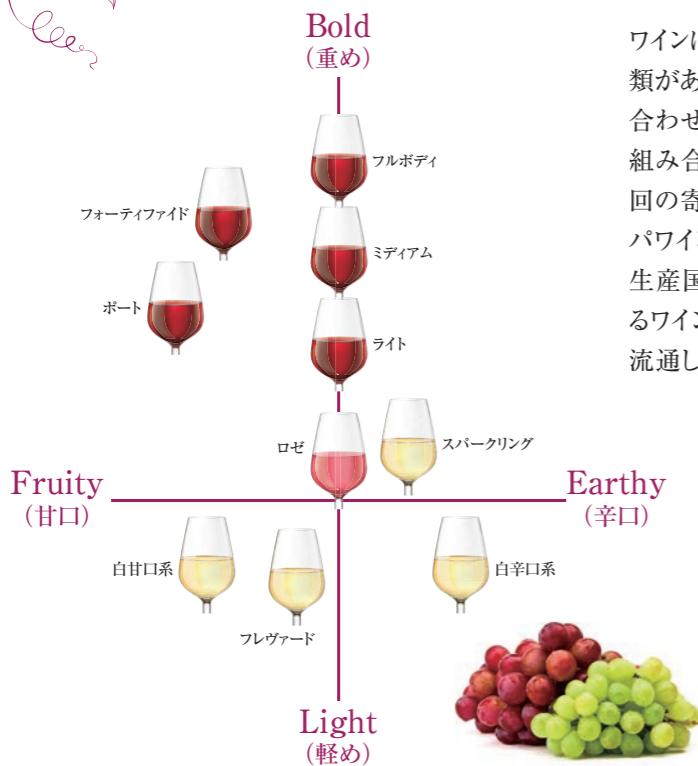
エッグタルト「バシュテル・デ・ナッタ」は国民的おやつ。

「魚の街」らしい、可愛い魚のマグネット。

幸せのシンボル雄鶏「ガロ」の置物。

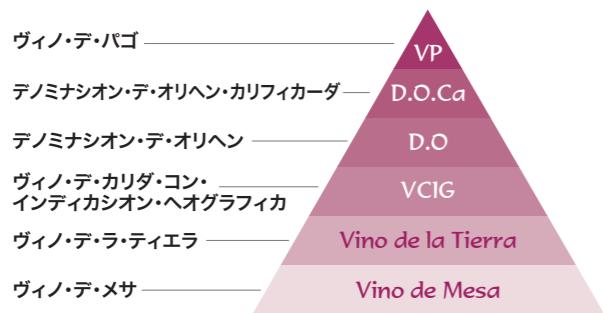


新しいワインとの出会い



ワインはブドウの品種や製造方法の数だけ種類があり味わいもさまざま。「色」「重さ」などで合わせるのが基本といわれるが、自分なりの組み合わせで相性を探るのもいいだろう。今回の寄港地のスペイン、ポルトガルはヨーロッパワインの代表格で、アメリカやチリなど新興生産国と比べて「旧世界」といわれる歴史あるワインを生み出している。日本ではなかなか流通していないワインとの出会いも楽しみだ。

✿スペインワインの格付け



ワインの生産がさかんな国々には、品質を厳格に守っていくためワイン法による格付け制度がある。たとえばワイン造りの歴史が古いスペインでも左図のような6つのカテゴリーに分類されている。お土産にはラベルに「D.O.」や「D.O.Ca.」と印字されているものがおすすめだが、非常に種類が多いので、格付けにこだわらずに自分の味覚にあったものを選ぶのもいい。

※ワインの格付け表示は国によって異なる。

✿ラベルの読み方



「波へい」でも楽しめます

洋上居酒屋「波へい」では寄港地にて直接仕入れたワインを取り揃え、和食とワインの絶妙な組み合わせを堪能できる。



Portugal



ポルト

Porto

ローマ時代に貿易で栄えた港町で、ポルトガルという国の名の由来になった「ポルト」。歴史的な遺産が残り必見スポットも目白押しだ。



アズレージョで覆われた礼拝堂「アルマス教会」。

Porto Food & Goods



郷土料理「フランセジーニャ」はボリューム満点のサンドイッチ。
独特の甘みとコクが人気のポートワイン。



「ポルト」の旧市街地は世界遺産に登録され歴史的建造物が多い。13世紀に建造された「ポルト大聖堂」やポルトの中心駅である「サン・ベント駅」では青いタイルのアズレージョの装飾も見ることができる。ゴシック様式の「サン・フランシスコ教会」は、天井や壁の彫刻が金泥細工でおおわれた美しい内装も必見だ。このエリアには世界一美しい本屋と評される見事な内装、設計の「図書店」があるので入ってみるのもいい。ただし入場料が必要になるので注意を。お土産を買うなら、ポルト随一のショッピング通り「サンタ・カターナ通り」がおすすめ。ひと休

川沿いを散策すると、巨大なアーチが目印のポルトのシンボル「ドン・ルイス一世橋」が見えてくる。上下層の2階建て構造で上層は39.5メートルあり、実に壯觀だ。また南側の丘にカラフルな建物が並んでいるのが見渡せる。それはまるで映画の「ワシントン」のような美しい光景だ。

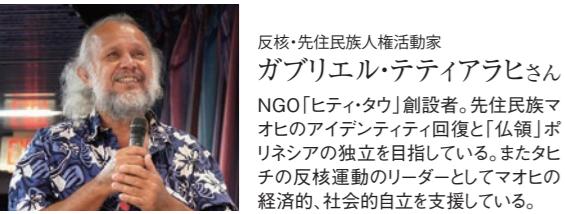
みするに最適なカフェも多い。ドロワ川をはさんだ対岸のエリアにもぜひ足を運びたい。本場ポートワインのワイナリー、ワインセラーがあり見学のほか試飲を楽しむこともできる。ここでしか手に入らないポルトワインをお土産にするのも素敵だ。

ワインのワイナリー、ワインセラーがみるに最適なカフェも多い。ドロワ川をはさんだ対岸のエリアにもぜひ足を運びたい。本場ポートワインのワイナリー、ワインセラーがあり見学のほか試飲を楽しむこともできる。ここでしか手に入らないポルトワインをお土産にするのも素敵だ。

歴史の情緒あふれる美しい港町



1:おしゃれな店が連なるパペーテの街並み。
2:モレア島へはフェリーや高速艇で渡る。
3:タヒチの台所であるマルシェ。4:標高2200メートルを超えるオロヘナ山。



Papeete Food & Goods



タヒチ観光の拠点となる南国の都市

パペーテは港を中心に形成されていて、近代的な街並みとともに南国の雰囲気をただよわせている。椰子の木やカラフルな色合いのショップが軒を連ねる。ボラマ大通りをはじめ多くの車が道行くパペーテは「南の都市」である。

現地の人々でにぎわうマルシェ(市場)には新鮮な野菜、肉、魚が並び、買い物かごには食品があふれている。その2階にも伝統工芸品や雑貨などのお土産物がお手頃の価格

で揃う。規模の大きな「バイマショッピングセンター」に足を伸ばせば、民族衣裳のパレオや黒真珠店などの専門店がありタヒチならではのお土産を買い求めることができる。

またグルメも充実し、モダンなカフェやレストランも多く、本格的なフランス料理から中華、イタリアン、ベトナム、郷土料理まで各国の料理を楽しめる。タヒチの人々が愛する、ライトラガーナ味わいが特徴の地ビール「ヒナノビール」

も食事のお供におすすめ。パペーテから1時間ほどのタラバオという街にピースボートと馴染みが深い、ガブリエル・テティアラビさん(通称..ガビ)がいる。農家であり活動家であるガビさんは20年以上ピースボートの友人として何度も乗船してくれている。反核運動、タヒチでの独立運動、先住民族の自立支援などの活動を行っているガビさんは、船上での講演のほか、自らの農園に参加者を受け入れ自然に敬意を払う大切さなどを教えてくれる。そんなガビさんとの交流を楽しみにしたい。



Papeete

タヒチの中心として活気に満ちる[パペーテ]

タヒチ島のとなりのモレア島の美しい海。

南太平洋に浮かぶ常夏のリゾート地タヒチ。観光地として世界でもトップクラスの人気を誇る楽園だ。フランス印象派の画家ゴーギヤンが愛し、晩年を過ごしたことでも知られている。タヒチ島の全周囲は約180キロあり、紺碧の海はもちろん緑深い山や熱帯植物が茂る谷など豊かな自然に恵まれている。タヒチにおける行政や商業の中心地である首都パペーテは、都心からフランス文化と島の魅力が溶け合って、お洒落な雰囲気ものどかな南国ムード両方の魅力をあわせもっている。解放感たっぷりのリゾートタイムを満喫したい。



Tahiti
Polynesia

世界で最も美しいといわれる島「ボラボラ島」

タヒチといえばボラボラ島を思い浮かべる人が多いように、南の島の代名詞にもなっている。船で島へ近づくと、美しい緑に覆われたオテマヌ山が出迎えてくれる。

ボラボラ島の周囲は約30キロで、ぐるりとサンゴ礁が囲み、ラグーンが延々と続いている。古代ポリネシアの神が創造したという伝説があるのも、うなずける美しさだ。透明度の高い海はサンゴだけでなく優雅に泳ぐカラフルな熱帯魚たちの姿もとらえることができる。ウミガメの泳ぐ姿にいやされ、運が良ければマンタに出会うことでもできる。どこのビーチも思わず声を上げてしまうほどの透明感だが、特に南端のマテイラビーチはパラダイスという表現がふさわしい、リゾート気分満点の絶景が広がるポイントだ。

島で一番大きな村であるヴァイタペ村にはカフェやお土産屋などが並び、休憩や買い物におすすめ。またボラボラ島では海の美しさだけではない魅力を感じて欲しい。豊かな緑も観光客を惹き付ける理由になっている。島の中央に堂々とそびえるオテマヌ山のふもとを散策すれば、ゴーギヤンも愛した神秘的な風景が広がり、大自然のシャワーを浴びながらリラックスできる。



島の南端に位置するマテイラビーチは息を呑むほどの美しさ。



ボラボラ島へ上陸するためのテンダーボート。



水上バンガローがリゾート感を演出。



1:島全体が一目りょう然の案内ボード。2:地元ミュージシャンの出迎え。3:港に停泊する観光用のカヌー。4:神秘性をたたえるオテマヌ山には太古からの自然が残る。

 *Bora Bora Goods*



南国らしい人形の置物。



ココナッツにティアレの花を漬込んだ「モノイ油」。



 **BoraBora**

タヒチ島から北西に250キロの海上にあり「太平洋の真珠」といわれるほどの美しさを誇る「ボラボラ島」。島の周りを取り巻く真っ白なビーチ、サンゴが生むグラデーション、青々とした海に惹かれ多くの観光客が訪れる。

電気のない地域の人々に照明を届ける

「ボヤージ・オブ・ライト」活動報告

第100回クルーズでフィリピンのNGO「Liter of Light(リッターオブ・ライト)」と共同した、新しいプロジェクト「Voyage of Light(ボヤージ・オブ・ライト)」が始動した。これは電気のない地域に、太陽光エネルギーを使った持続可能な照明システムを提供する活動で、今クルーズでは20カ国中、8ヶ国で約500個のライトとその作り方などの知識を届けてきた。

ピースボートとリッターオブ・ライトの出会いはおよそ2年前。国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた取り組みを紹介するためにアブダビを訪問していたときだった。そこからお互いの活動を認め共感し合い、「将来、

パートナーシップのもと一緒に何かやりましょう」と話し合ったことがきっかけだった。

リッターオブ・ライトはフィリピンで2011年に創設されたNGOで、ペットボトル廃材やLEDライト、バッテリーといった比較的手に入

りやすい材料と太陽光を活用して持続可能なライトを世界中に届けてきた。これまで世界中約100万戸の家や道を照らしてきたが、世界にはまだまだ電気のない地域は多く、不自由な暮らしを強いられている人々が多い。そこでこの活動を、

ピースボートの記念すべき第100回クルーズにおいて新プロジェクト「ボヤージ・オブ・ライト」として推進していく企画が立ち上がり、2年前の約束が実現した。

クルーズにはピースボートとリッターオブ・ライトの代表イラク氏を含めたスタッフが乗船し、船内でエネルギー問題に関する講座を開き、照明作りのワークショップを開催した。乗船者の関心も高く、毎回大勢の参加者から取り組みへの賛同を得ることができた。



ボヤージ・オブ・ライト活動報告会において。



明りのなかの夜に照明が点る。



照明は子どもでも簡単に作ることができる。



マダガスカルにおけるワークショップの様子。

寄港先にはあらかじめピースボート事務局が諸団体へ連絡をして、参加者を募った。学生を中心の団体もあり、また寄港先から提供先の現地へ向かいワークショップを開催したケースもあった。今回はフィリピンの家庭で一般的に使用されるランタンの廃品を活用して照明を作り、同時に修理方法などの知識も伝授し、太陽光エネルギーで持続可能な照明を提供した。いずれも夜明けが点いて「宿題ができるようになった」「危険だった夜道を安心して歩けるようになった」など、皆さんにとても喜んで



寄港先にはあらかじめピースボート事務局が諸団体へ連絡をして、参加者を募った。学生を中心の団体もあり、また寄港先から提供先の現地へ向かいワークショップを開催したケースもあった。今回はフィリピンの家庭で一般的に使用されるランタンの廃品を活用して照明を作り、同時に修理方法などの知識も伝授し、太陽光エネルギーで持続可能な照明を提供した。いずれも夜明けが点いて「宿題ができるようになった」「危険だった夜道を安心して歩けるようになった」など、皆さんにとても喜んで

もらえた。結果として今クルーズでは20カ国中、8ヶ国で約500個の照明を届けることができた。

今年3月に行われたボヤージ・オブ・ライト活動報告会で、イラク氏は次のように挨拶した。「ピースボートは私たちの最良のパートナーで、次の寄港地を訪れるまで船のなかの皆さんと一緒に準備を進めることができました。力を合わせ大きなプロジェクトを成し遂げました。またピースボートが長い年月をかけて育ててきた世界中のネットワークのおかげで私たちの活動もスムーズにより深く理解してもらいうことができました」。



リッターオブ・ライト代表のイラク氏。

ボヤージ・オブ・ライトは、今後もピースボートの活動の一環として定期的に実施していく予定だ。「講座を開き、ワークショップを実施し、照明を寄付する」というスタイルで、まだ電気のない地域の、より多くの家庭に光」を届けていく。

2019年2月に寄港した南米ウルグアイのモンテビデオにおいて、ピースボートの寄港を歓迎し、ルシア・トボランスキーフ副大統領がオーシャンドリーム号に来船した。

船内ではまずピースボートの、国連の持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み、核廃絶を訴えるICANの活動、被爆証言を世界に届ける「おりづるプロジェクト」などを紹介した。

おりづるプロジェクトを代表して渡辺淳子さんによる証言会も行い、「私はまだ幸運にも生きています。世界にこのような悲劇が繰り返されぬよう、そして核のない世界のため証言を続けています」と涙ながらに訴え、トボランスキーフ氏が優しく抱きしめる場面もあった。

乗船者に向

けて行つたスピーチ。ピーチでトボランスキーフ氏は、平和と持続可能な性を追求す

るウルグアイの取り組みを紹介し、ベネズエラの現状に対する非軍事的で平和的な調停についても言及した。また自然資源が豊かなウルグアイ国内における再生可能エネルギーの拡大についても強調した。

「こんなに多くの方が船旅を共にする。ウルグアイの人々を代表し皆さんの訪問に感謝します」という言葉に、会場は大きな拍手が湧き起つ。世界中に平和のメッセージを届けているのは素晴らしいことです。ウルグアイの人々を代表し皆さんの訪問に感謝します」という言葉に、会場は大きな拍手が湧き起つ。世界中に平和のメッセージを



来船したトボランスキーフ氏を出迎える。

ウルグアイ副大統領ルシア・トボランスキーフさん訪船

2019年2月に寄港した南米

ウルグアイのモンテビデオにおいて、ピースボートの寄港を歓迎し、ルシア・トボランスキーフ副大統領がオーシャンドリーム号に来船した。

船内ではまずピースボートの、国連の持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み、核廃絶を訴えるICANの活動、被爆証言を世界に届ける「おりづるプロジェクト」などを紹介した。

おりづるプロジェクトを代表して渡辺淳子さんによる証言会も行い、「私はまだ幸運にも生きています。世界にこのような悲劇が繰り返されぬよう、そして核のない世界のため証言を続けています」と涙ながらに訴え、トボランスキーフ氏が優しく抱きしめる場面もあった。

乗船者に向

けて行つたスピーチ。ピーチでトボランスキーフ氏は、平和と持続可能な性を追求す



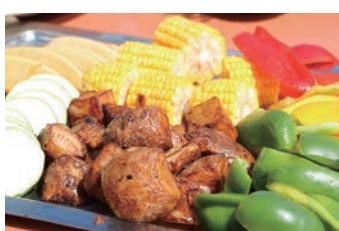
船上百景 [洋上バーべキュー]



洋上バーべキューは新しい友人ができる機会でもあり、毎回多くの参加者でぎわう。



開放感のなかで食欲も刺激される。



毎回、豪華な食材が用意される。

世界一周のクルーズにおいて、船内ではさまざまなイベントが企画されるが、参加者がワイワイと陽気に楽しめるのが洋上バーべキュー。友人同士はもちろん、船内で知り合いになった旅仲間などで声掛け合い、毎回大勢の参加がある。デッキにバーべキューセットが用意され、お肉やシーフード、野菜などが次から次へといい香りとともに焼けていく。焼き上がりを待つ間、デッキチエアでくつろぎ海風がそよぐなか、これまでの寄港地への期待を振り返つてみる。また、これからの大航海時代に友人たちと語りあう。見渡す限りの大海原で口にする美味しいビールと焼きたての食材は、参加したみんなのお腹と心を満たしてくれる。

洋上バーべキューは毎回大好評。美味しいものを食べるだけでなく、仲間との思い出づくりにとって大切なひとときになつてこる。

「船というのは移動の他に、さまざまなモノを運ぶことができるのが特徴です。ぜひ皆さんも乗船

時には、笑顔、幸せ、平和な心を世界中の港にお届けください。そうすることと、数百年後の人々が、「平和大航海時代」は20世紀後半から始まつた」と言われるかも

料理も会話も格別 旅仲間といじりのひとときを

「大きな船はいつも、私たちの島に悪いものを持ち込んできた。鉄砲だつたり疫病だつたり。あるいは私たちの島からいろんなものを持ち去つていつた」これは、今号でも紹介しているタヒチに暮らす水先案内人ガビさんのお話です。スペインやポルトガルを中心に行き、15世紀半ばより始まった『大航海時代』以降の歴史を指していると思われます。ヨーロッパからの視点では、遠い海の向こうの大陸や島々を「発見」と言いますが、その地に暮らす人びとにとつては辛く悲しい歴史の始まりとも言えます。

しかし、ガビさんの言葉には続きがあるのです。「あなたたちピースボートは、はじめて大きな船で”平和”を運んできた。しかも何も持つていかず、幸せを置いていってくれた」。

船というものは移動の他に、さまざまなモノを運ぶことができるのが特徴です。ぜひ皆さんも乗船時には、笑顔、幸せ、平和な心を世界中の港にお届けください。そうすることと、数百年後の人々が、「平和大航海時代」は20世紀後半から始まつた」と言われるかも

